

甲状腺外科草子 24

華岡青洲起死回生の術

杉野 圭三

華岡青洲による通仙散を用いた最初の全身麻酔による乳癌手術は 1805 年 10 月 13 日に施行された。患者は藍屋利兵衛の母、勘。乳癌治験録などに記載された資料を見ると、自壊寸前の発赤した巨大進行癌である。手術は成功したが、術後 4 か月半後に死亡したとされる。全身転移を伴う状況かと考えられる。



乳癌手術第一例目

乳癌治験録

乳癌摘出術は皮切を加えた後に、腫瘍周囲をメスや鋏で剥離し、腫瘍を両手で把持し核出、縫合後に圧迫止血を行っている。



手術の皮切、摘出

圧迫止血

乳癌姓名録に記載された患者数は 156 名、全例手術したわけではなく、手術件数は 143 例と考えられる。再発例 6 名、三発例（再々発）2 名で、術直後に約 1000ml の出血のため死亡した症例も含まれている。



手術誓約書

結紮法の考案

青洲は各種の手術器械の改良や結紮法の考案も行い、外科治療の改善を図った。手術に際しては誓約書をとっており、現在の医療安全にも通じる入念な準備である。

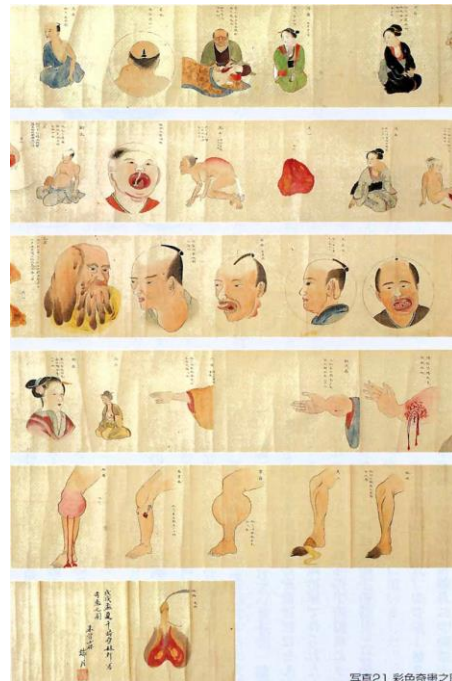


摘出した腐骨



弾丸

青洲の行った手術は乳癌だけでなく、多領域にわたっている。外傷、骨折、血管腫、緑内障、脳水腫、兔唇、痔瘻、尿道結石、子宮脱、などの手術記録が残されている。当時の医学水準からすれば、驚くべき奇跡的な起死回生の手術と驚かれたに違いない。



彩色奇患之図に記載された多数の手術

参考文献

1. 上山英明。華岡青洲先生 その業績とひととなり。1999。
2. 和歌山市立博物館。華岡青洲の医塾 春林軒と合水堂。2012
3. 松木明知。謎につつまれた華岡青洲の生涯—麻沸散による全身麻酔施行 200 周年を記念して—。日臨麻会誌 25, 427-440, 2005。

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2022 年 3 月 31 日